

## 「脱炭素おおいそ町民会議」第5回 会議録

### 1. 概要

日時 : 2025年11月30日(日)13:00~16:30

会場 : 大磯町保健センター 2階研修室

参加市民 : 25名(欠席者:9名)

全体ファシリテーター : 徳田太郎(ユニベルシタスつくば/VOICE and VOTE 代表)

グループファシリテーター : 鈴木優子、石澤志津、川瀬裕子、長谷川優介、石澤直樹、辻阪吟子

主催者 : 実行委員会委員 : 岡部幸江、オダギリミホ、加藤洋、半田志野、八尋陽子

大磯町 : 磯崎清彦、藤野陽平

神奈川県 : 松田泰弘、佐々木敬太

事務局 : 稲田素子、柳下正治、奥田英道、三河純子、運営スタッフ等

### 2. 第5回会議の目的

- (1) 町民提案の内容について、内容のチェックや町民提案書全体の調整、文章の確認を行う。
- (2) 前回までに議論できなかった分野を超えて共通しているテーマについて、話し合う。
- (3) 全5回の会議全体を振り返り、提案の完成と公表等、今後のスケジュールを共有する。

### 3. 実施概要

時刻	内容
13:00	開始・オリエンテーション
13:10	町民提案(素案)の説明
13:20	移動・インストラクション
13:30	グループ対話① 町民提案(素案)の確認1
14:05	休憩・移動
14:15	グループ対話② 町民提案(素案)の確認2
14:50	全体共有
15:00	移動・インストラクション
15:10	グループ対話③ 分野横断的テーマのディスカッション
15:35	全体共有
15:40	移動・休憩
15:50	グループ対話④町民会議を振り返る、チェックアウト
16:10	今後の日程のアナウンス
16:20	閉会挨拶・記念撮影

※ 16:50まで放課後タイム(希望者の歓談時間)

(1) 開始・オリエンテーション 徳田太郎(ユニベルシタスつくば)

開始時は、ホームグループで着席。オリエンテーションでは、全体ファシリテーターの徳田氏から、第5回の流れとゴールの共有、話し合いの原則が伝えられた。

チェックインでは、「この5週間の出来事」と「今日の期待」を共有した。

(2) 町民提案(素案)の説明 柳下正治(事務局、一般社団法人環境政策対話研究所 代表理事)  
事務局柳下より、町民提案(素案)について説明があった。主要ポイントは以下のとおりである。

- ・ 前回第4回会議のグループ討議の結果を基に、4つの分野ごとに取りまとめ、「町民提案(素案)」として資料を作成し、お手元に配布してある。
- ・ 資料の文中、赤字の部分がある。これは、第4回会議では必ずしも参加町民間での話し合いでは話われなかったが、第3回会議でお示した町民による脱炭素アクションの報告資料の中において、「アクションの継続、大磯町への普及のための措置」として町民の皆様から実質的な提案文章が既に提示されているので、その文章を関連個所に赤字で挿入させていただいた。
- ・ また、11月19日に参加町民有志のOnline参加による、「町民提案(たたき台)」についてのフリートーキングを実施した。その中で、いくつかの課題について参加者からさらに議論を深めるべきである旨の指摘が出された。その点については、「町民提案(素案)」の中で特記しているので、是非とも本日のグループ討議の中で議論を深めて欲しい。
- ・ グループ討議は5つの班に分かれて実施する。以降、徳田氏の進行で進めて頂くが、最初の5つの班は、4つの分野ごとに構成され、「消費」の3グループを形成している。これは「消費」の分野が特に扱う分量も多く、課題も多いと感じられるからである。
- ・ なお、各グループには、実行委員、事務局等から2人ずつ同席し、参加町民の議論の手助けをするとともに、必要な記録を取らせていただく。

(3) 移動・インストラクション

ホームグループから、グループ対話①の席へ移動。全体ファシリテーターの徳田氏から、グループ対話①②の進め方の説明があった。

(4) グループ対話① 町民提案(素案)の確認I

グループ対話①では、第4回会議の分野別グループ対話で参加した分野をもとに、メンバーを指定してグループ編成を行った。

グループ対話では、テーブルの上に各分野の「町民提案(素案)」を置き、以下の点について確認を行った。

- ① 個々の取組み・アイデアにつき、内容や表現を検討する
- ② 抜けている課題／加えるべきアイデアがないか検討する
- ③ 会議に出ていない町民にも理解・共感が得られるよう、全体を確認・調整する

なお、これらの確認の過程で、11月19日にオンライン開催された参加者有志による確認・意見交換会で出された論点・内容についても、各分野のグループ対話の中で話し合われた。

また、グループ対話①②で、各分野のテーブルには、GFA以外に主催者・事務局の担当者が各2名

同席し、事前の打ち合わせにより担当者間で共有したコメントなどを行った。

(分野別担当 住まい:稲田素子、岡部幸恵、消費:柳下正治、八尋陽子、村上千里、半田志野、移動:磯崎、辻阪吟子、吸収源:加藤洋、オダギリミホ)

(5) 休憩・移動

休憩時間に、グループ対話②の席へ移動した。

(6) グループ対話② 町民提案(素案)の確認2

グループ対話と同じ内容で2ラウンド目を行う。グループの分野は、自由選択だが、「消費」分野の2グループの参加者は、可能な限りグループ対話②でも消費のもう一つのグループを選んでもらえるように依頼があった。

(7) 全体共有

各分野のテーブルに、グループ対話①と②での変更を赤字で記入し、特筆すべき点を記録した付箋を貼った「町民提案(素)」の表を置き、参加者は自由に見て回った。

(8) 移動・インストラクション

グループ対話③の席に移動した後、全体ファシリテーターの徳田氏からグループ対話③の進め方についてインストラクションがあった。この時間には、2050年の主役となる10~20代の参加者のグループを一つ編成し、それ以外はホームグループに準じた、人数と条件(年齢・性別・居住地域)を同じにした5グループとて編成した。

(9) グループ対話③ 分野横断的テーマのディスカッション

移動した2050年の主役のグループと5グループで、これまでベースとしてきた4分野(住まい、消費、移動、吸収源)を超えて共通するテーマとその取り組みについて、話し合いを行った。

- ① 分野を超えて共通するテーマにつき、検討すべき課題を挙げる
- ② ①の課題について抜けている課題/加えるべきアイデアがないか(中長期の視点から)検討する

(10) 全体共有

最初に、2050年の主役としての課題・取り組みを話し合ったグループの参加者5名から、一人ずつそれぞれの提案を発表した。その他の5グループでの対話の結果は、課題ごとにA4で1枚の紙に取り組みをまとめ、テーブルの上に置き、全員が自由に見て回った。

(11) 移動・休憩

ホームグループに席を移動し、休憩をとった。

(12) グループ対話④町民会議を振り返る、チェックアウト

ホームグループで、全5回の会議最後のグループ対話を行った。本町民会議全体をふり返り、以下の点について話し合った。結果は、1～3についてA4の3枚の紙に記録した。

- ① 会議を通じて自分が変化した点
- ② 今後、同様の会議を行う際にも、継続するとよい点
- ③ 今後、同様の会議を行う際に、改善するとよい点

チェックアウトでは、「全5回の感想」を一人ずつ話し、ホームグループで共有した。

- (13) 今後の日程のアナウンス 稲田素子(脱炭素おおいそ町民会議実行委員会事務局/IDEP 理事)
- 第5回以降の日程について、事務局稲田からアナウンスが行われた。町民提案は、グループ対話での確認内容を集約し、参加者の投票を行った上で12月21日には、提案(成案)として確定させる。また、会議全体の事後アンケート、第6回会議(2025年2月1日)の概要、小冊子の作成等について説明があった。

また、大磯町磯崎氏から、会議当日の午前、大磯町主催の映画上映会が開催されることが紹介された。

- (14) 閉会挨拶・記念撮影

実行委員会委員の加藤洋氏から、閉会の挨拶があり、参加者と実行委員、大磯町、関係者への感謝が述べられた。また、当日骨折により欠席した松浦治美実行委員長からのメッセージが読み上げられた。

すべてのプログラムの最後に、参加者、また関係者も加わって全体写真を撮影した。